

キヤノンマーケティングジャパン様講演（2026.4.28）アンケート結果より抜粋

○食品ロスという一つの観点から、廃棄物処理、3R、水ロス、ダイナミックプライシングなど、話題が広がっていき、一見一つの問題に見えても様々なこと、モノが複雑に関わり合っているのだと気づきました。同時に問題解決に取り組む際に様々な観点から取り組むべきであることを理解しました。

○食品ロスという一つのテーマに、農業や小売業はもちろんだが、関連して経済、環境、医療費、教育費のように全ての分野がつながっていることを再確認した。日本のごみ焼却量が世界の中でも飛び抜けていることには一番驚いた。

○実データが多く、説得力がありました。

○食品ロスの現状を、データだけでなく、身近な例を交えながらわかりやすく学ぶことができ、大変勉強になりました。

○食品をどうリサイクルするか以前に、そもそもの廃棄物の抑制を行うことが重要だと理解した。

○ごみ処理の予算が二兆円で、国公立の予算の二倍あると聞き、非常に憤りを感じた。ただのごみ処理でこれだけの費用を使っていることは、とてももったいないと感じた。法や税でごみを規制する必要があると感じ、韓国のごみの量で課税量を変えるのはいい方法だと考えた。

○今回の講演で特に印象に残ったのは、食品ロスの問題が単なる「もったいない」という感覚的な話ではなく、需要と供給のズレから生じる問題であるということである。これまで食品ロスは倫理的な問題として捉えていたが、実際には生産・流通・消費の各段階で発生していることに気づかされた。また、フードロスと食品廃棄物が同義ではないという点も新たな学びだった。日本では食品ロスが家庭と事業者で半々という現状から、企業側の努力だけでは解決できず、消費者一人ひとりの行動も重要であると感じた。特に、韓国の従量課金制のように、廃棄に罰金を紐づけることで行動を変える仕組みは有効な手段だと感じた。

○国立大学の研究費よりもごみ処理費の方が高いことに衝撃を受けました。今まで、ごみの処理にどのくらい税金がかかるのか考えたこともありませんでした。ごみ処理だけでなく、もっと気をつければ削減できる税金がたくさんあるのだらうと思い、やるせない気持ちになりました。まずは、自分のごみの量を減らす努力をします。

○食品ロスの規模の大きさに驚きました。日本の食品ロスの損害が4兆円にも及ぶにもかかわらず、有効な手立てや消費者にみえるかたちで支援が行われていないことに違和感を感じました。国家予算規模の話になると額が大きくなりづらくなりがちですが、井出さんは国立大学の予算の話も交えてお話くださったので、参考になりました。今回のお話の中で、フードロスとフードウェイストの差も明確になりました。

○私たちの食品ロスへの認識が少し異なることがわかった。フードロスとフードウェイストの違いを正確におさえ、さらに食品ができるまでのサプライチェーンについても理解を深めることができた。日本の食品ロスの現状を正確にとらえる必要性を感じるとともに、その背景にある原因や、私たち国民が自らの首を絞めている状況なども理解する機会になった。特に印象に残っているのが「分ければ資源、混ぜればごみ」という言葉であった。めんどくさいの気持ちの重なりが環境問題加速や税金の無駄遣いにつながってしまうということを痛感した。サプライチェーンのなかで各段階におけるごみの排出を考えるという視点を学んだことはとてもよい学びであったと思う。